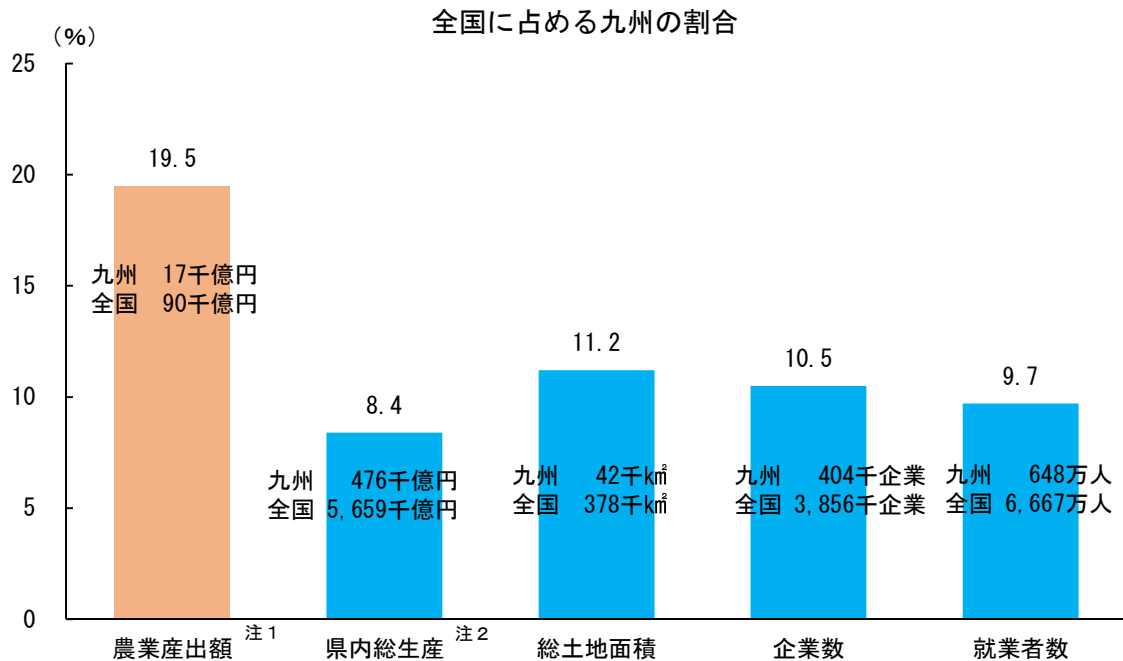


構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

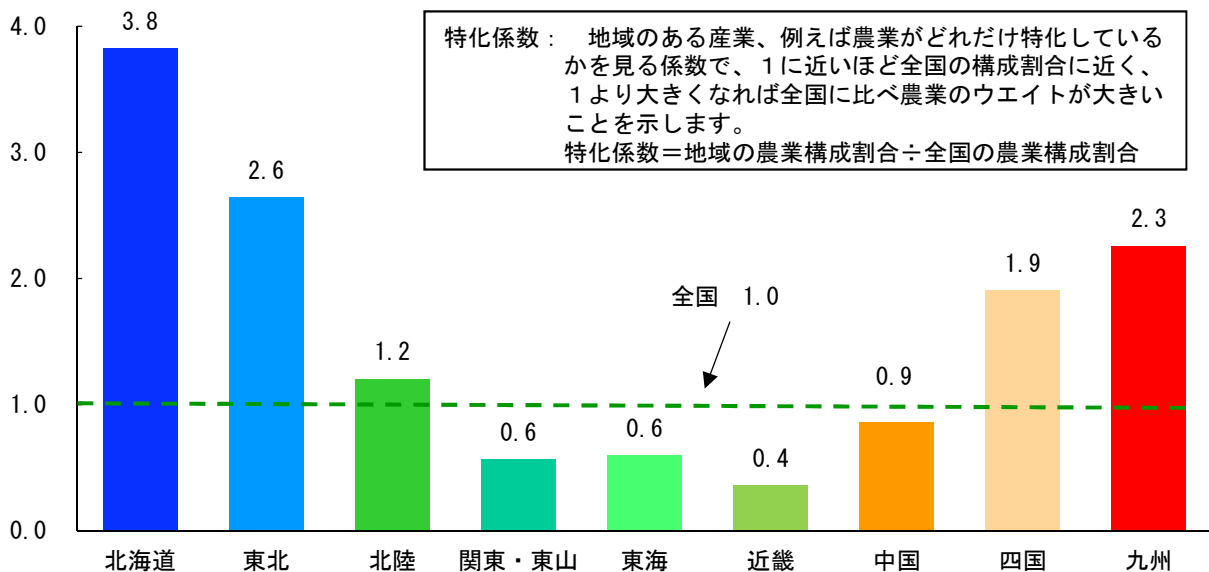
また、県民経済計算(県内総生産)の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。



資料：農林水産省「令和2年生産農業所得統計」、内閣府「平成30年県民経済計算」
 国土地理院「令和3年都道府県市町村別面積調」、総務省「平成28年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和3年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。
 2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。

県民経済計算からみた農業の特化係数

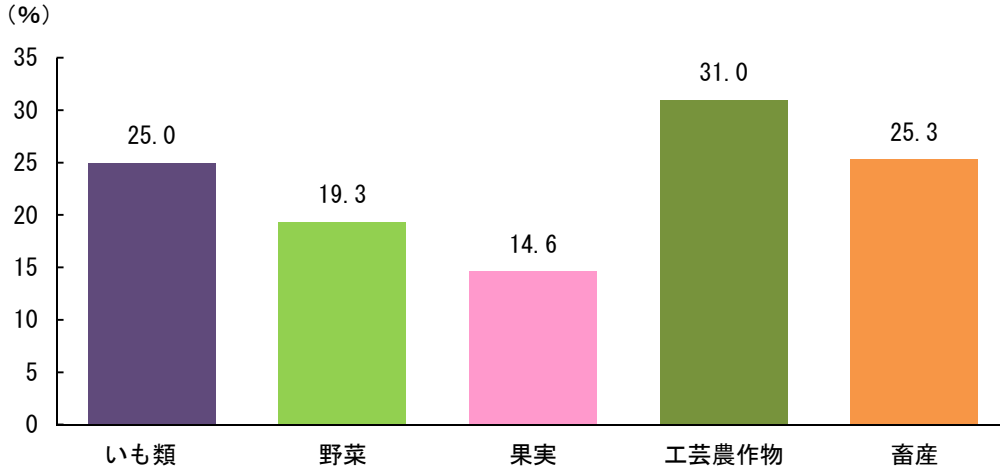


資料：内閣府「平成30年県民経済計算」

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

九州の部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、いも類、工芸農作物、畜産では約3割、野菜では約2割を占めています。

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合



資料：農林水産省「令和2年生産農業所得統計」

主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：%

部門	品目名	九州が占める割合	九州1位の県が占める割合
いも類	かんしょ	27.3	鹿児島 14.3
	ばれいしょ	23.3	鹿児島 11.7
野菜	いちご	37.4	福岡 12.8
	ピーマン	37.7	宮崎 20.8
	アスパラガス	29.6	佐賀 8.7
	トマト	28.3	熊本 17.9
	すいか	23.8	熊本 19.1
	きゅうり	23.5	宮崎 12.6
	なす	22.1	熊本 11.4
	メロン	20.3	熊本 16.2

部門	品目名	九州が占める割合	九州1位の県が占める割合
果実	しらぬい	69.5	熊本 49.7
	なつみかん	64.7	鹿児島 39.2
	マンゴー	64.5	宮崎 52.6
	みかん	32.9	熊本 9.5
	キウイフルーツ	25.5	福岡 17.0
	くり	23.3	熊本 16.3
	工芸農作物	葉たばこ	46.8
茶(生葉)		46.2	鹿児島 31.8
さとうきび		38.2	鹿児島 38.2
畜産	ブロイラー	48.0	宮崎 19.3
	肉用牛	41.4	鹿児島 16.8
	豚	29.4	鹿児島 13.0

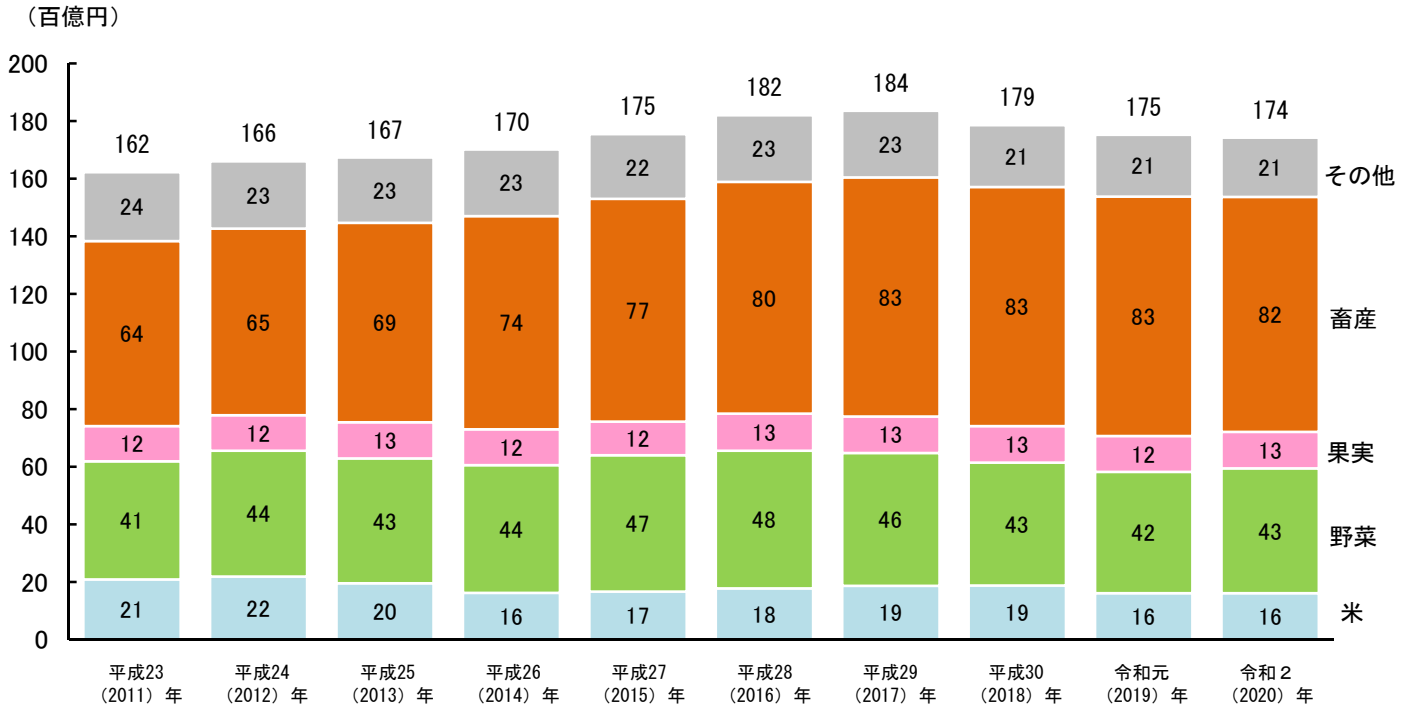
資料：農林水産省「令和2年生産農業所得統計」

構造 — 農業産出額 —

【農業産出額は前年よりやや減少】

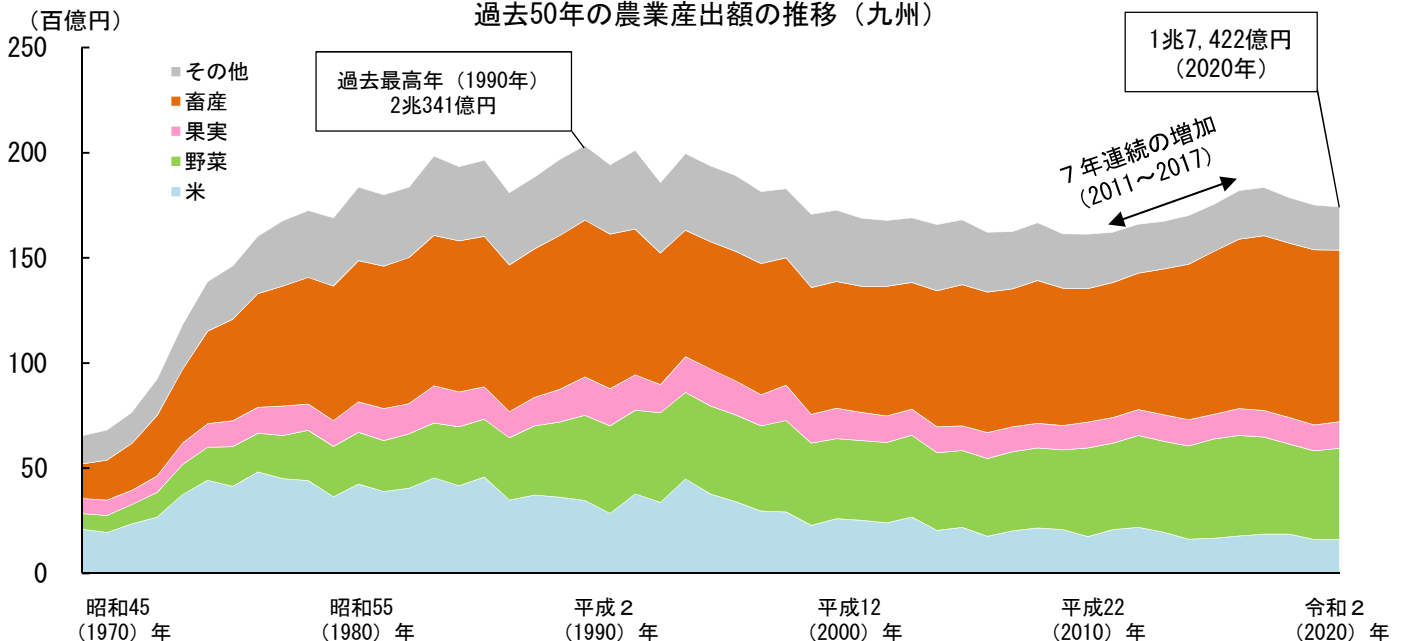
令和2(2020)年の九州の農業産出額は1兆7,422億円で、新型コロナウイルス感染症拡大による巣ごもり需要や天候不順により、野菜や豚の価格が上昇した一方で、肉用牛においては需要減少により価格が低下したこと等から、昨年に比べやや減少しています。過去50年の農業産出額をみると、平成2(1990)年をピークに減少傾向で推移していましたが、平成23(2011)年以降は7年連続で増加し、平成30(2018)年以降は減少しています。

近年の農業産出額の推移(九州)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

過去50年の農業産出額の推移(九州)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

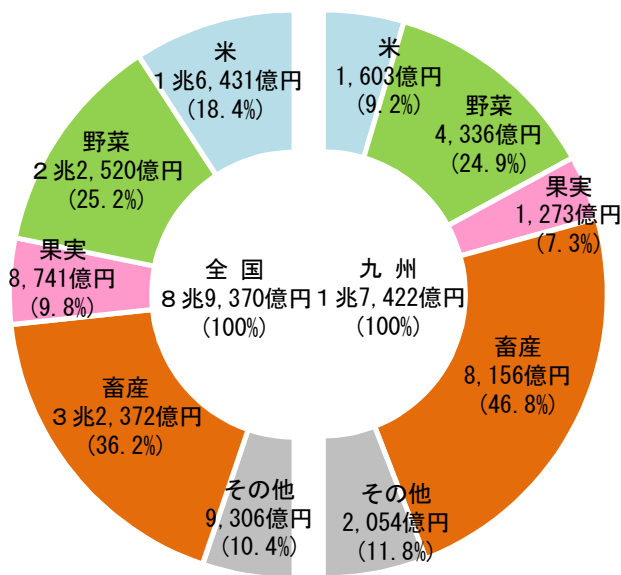
【畜産や野菜が盛ん】

部門別にみると、九州は全国に比べて米の割合が低く(全国18.4%、九州9.2%)、畜産の割合が高くなっています(全国36.2%、九州46.8%)。このほか、温暖な気候を活かし、野菜や果実の生産など多様な農業が展開されています。

過去と比べると、九州では、昭和45(1970)年は25.1%だった畜産が令和2(2020)年には46.8%へと、野菜は11.4%から24.9%へと大幅に増加しました。一方、米は32.1%から9.2%へと大幅に減少し、時代と共に米を中心とした農業から野菜、畜産を中心とする農業へと推移しています。この推移は、全国と同じ傾向です。

その結果、農業産出額の全国上位10県に畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県がランクインしています。

農業産出額部門別割合(令和2(2020)年)



資料：農林水産省「令和2年生産農業所得統計」

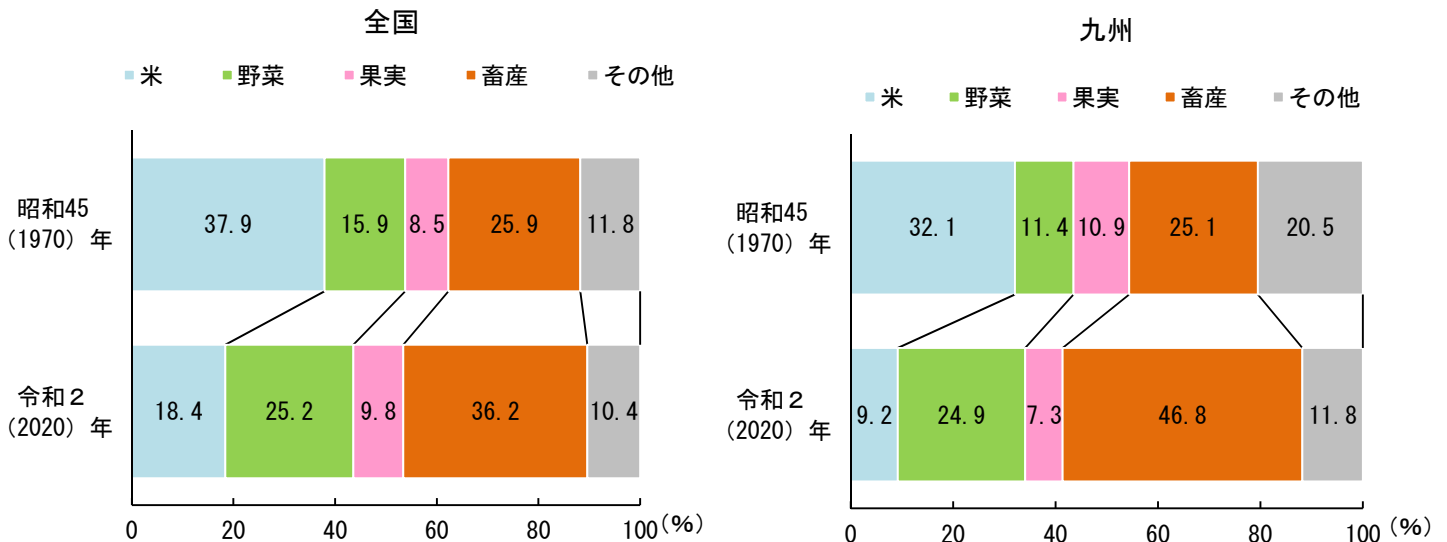
農業産出額全国上位10県(令和2(2020)年)

単位：億円

順位	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	12,667
2位	鹿児島	4,772
3位	茨城	4,417
4位	千葉	3,853
5位	熊本	3,407
6位	宮崎	3,348
7位	青森	3,262
8位	愛知	2,893
9位	栃木	2,875
10位	岩手	2,741

資料：農林水産省「令和2年生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較(全国・九州)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

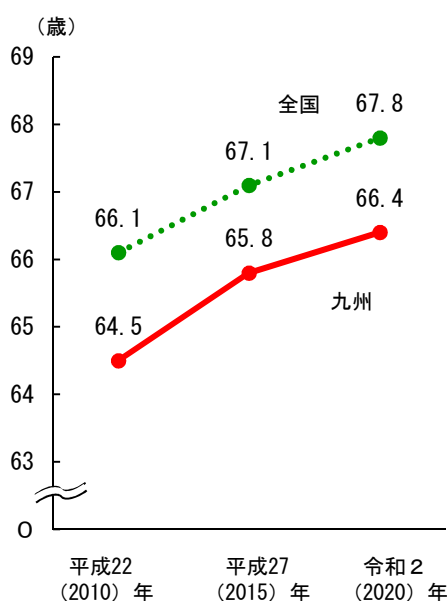
構造 — 農業経営体 —

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

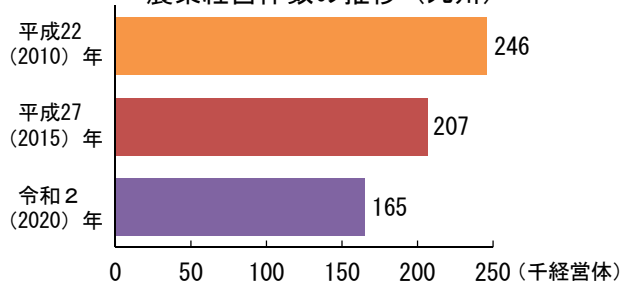
九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は165千経営体であり、10年前に比べて約3割減少しましたが、法人化している経営体は1.5千経営体(37%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。

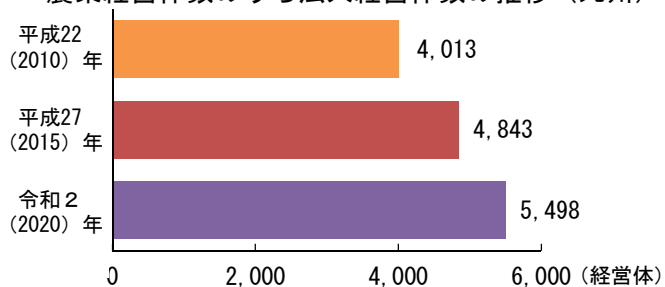
基幹的農業従事者平均年齢



農業経営体数の推移 (九州)



農業経営体数のうち法人経営体数の推移 (九州)



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

基幹的農業従事者平均年齢

平成22 (2010) 年は販売農家の数値、平成27 (2015) 年、令和2 (2020) 年は個人経営体の数値。

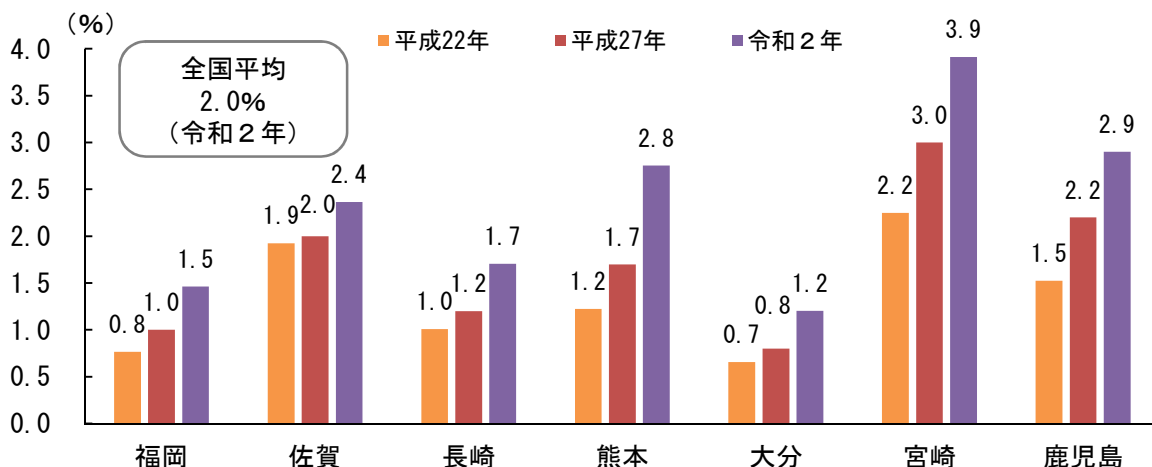
農業経営体

経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

法人経営体

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

構造 — 耕地面積 —

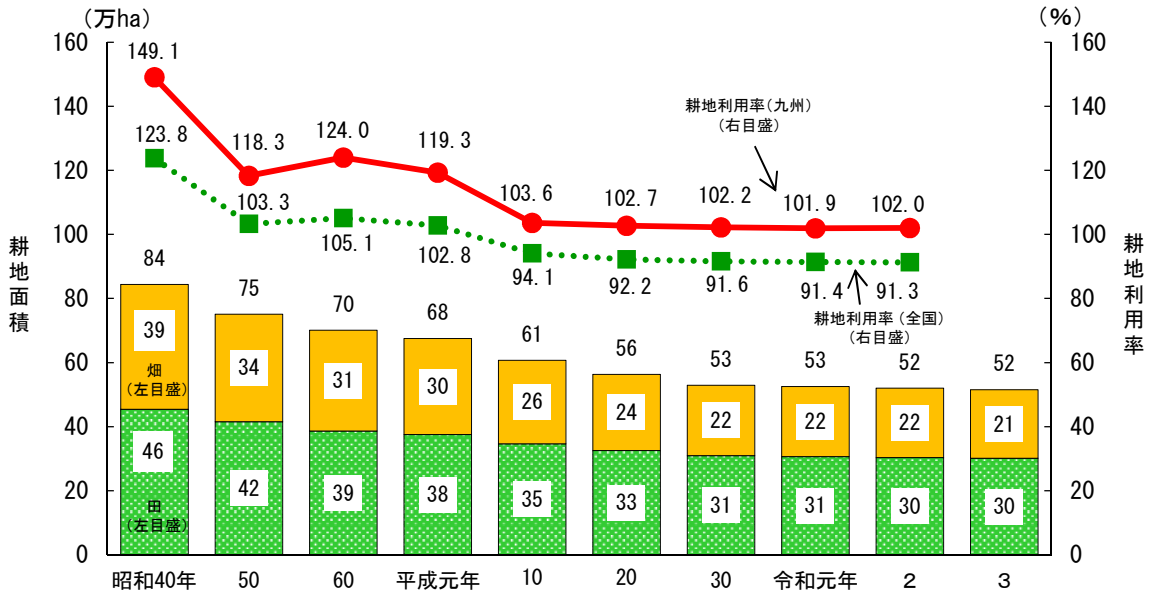
【耕地面積は51万5,200ha、耕地利用率は102%】

九州の耕地面積は、全国(437万ha)の約1割を占めています。

担い手の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成元(1989)年からおよそ16万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、減少幅は緩やかになってきています。

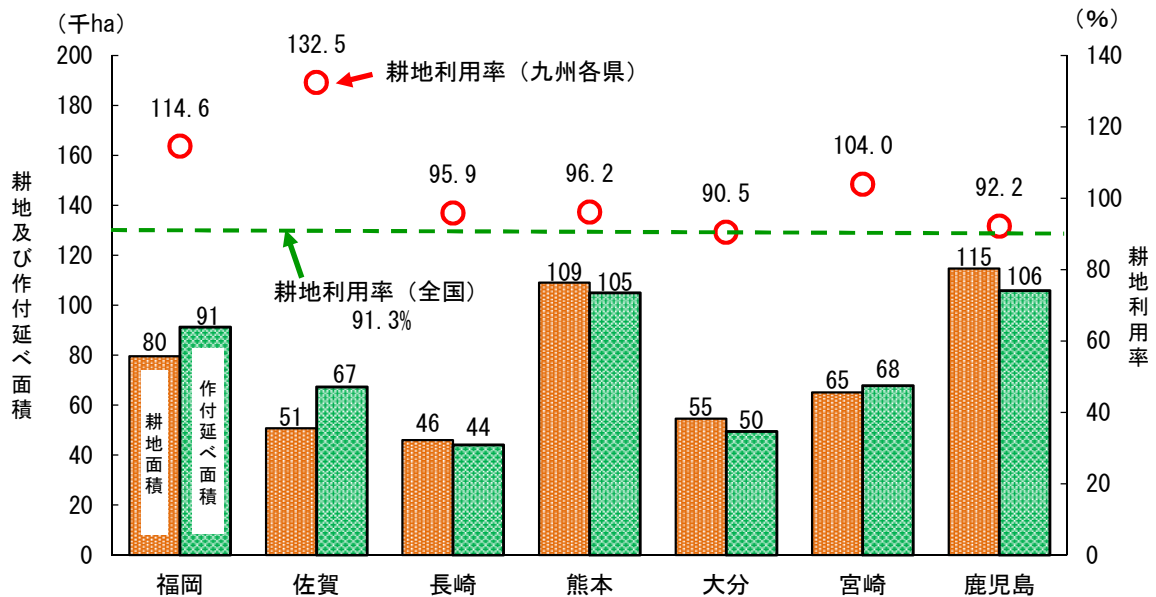
耕地利用率は全国平均91.3%を上回る102.0%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を大きく上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移 (九州)



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

耕地及び作付延べ面積と耕地利用率 (令和2年(2020)年)



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」